『十年間の軌跡』

日野高等学校　３年　堀井　友貴

僕はもうすぐ高校生活最後のサッカーの試合を迎えようとしています。ずっとがんばってきたサッカーの節目として10年間の軌跡をここに残したいと思います。

僕がサッカーを始めたのは小学校３年生のときでした。当時、桜谷小学校は同級生が８人でした。中学校に入ったとき、大勢の人数に圧倒されることを心配した両親がサッカーを勧めてくれました。サッカーに興味があったわけではなかったので、知らない子たちばかりのスポーツ少年団に入ることになり、不安でいっぱいでした。初めてチームの練習に行ったとき、周りにはもう友だちの輪ができていました。その中に入っていくのはとても心細く、不安だったことを覚えています。僕の小学校では、友だちの名前を〇〇ちゃんや〇〇くんと呼んでいたので、初対面の子から呼び捨てにされて怖かったことを母親に話しましたが、それも今では笑い話です。はじめは怖いと思っていたチームの子たちでしたが、関わってみると優しい人ばかりで、サッカーのことを何も知らない僕に、練習のたびに一緒にボールを蹴ろうと声をかけてくれて、みんなと打ち解けていくことができました。

スポーツ少年団で思い出に残っているのは、４年生のとき初めてシュートを決めたことです。チームにはサッカーの上手な子が多く、僕が試合に出られることはありませんでした。やっと出られた試合でシュートを決めたこと、チームメイトみんなが喜んでくれたことがとてもうれしかったです。サッカーを始めたばかりで下手な僕が試合に出ても、笑ったり馬鹿にしたりすることなく、応援してくれるチームメイト。レギュラーでも控えのメンバーでも分け隔てなく応援し合えるチームメイト。スポーツ少年団のサッカーチームに入り、最高の仲間ができました。

中学校に入学し、同級生が小学校の８人から150人ほどに増えましたが、サッカーでの知り合いがたくさんいたこともあり、スムーズに中学校の生活に入っていくことができました。心配して、スポーツ少年団に入団させてくれた両親に感謝しています。

中学校のサッカー部に入部し、３年生の先輩のサッカーを見たときの衝撃は忘れることができません。小学校のサッカーとはすべてにおいてレベルが違いました。３年生の先輩たち最後の試合を応援したとき、自分もあんなプレーができるようになりたいと心の底から思いました。中学校２年・３年は、コロナウィルスの影響で

思うようにサッカーができないなか、最後の夏季総体を迎えました。無事に１回戦を勝利することができましたが、２回戦は同点のまま試合終了。ＰＫ対決となりました。僕はプレッシャーから蹴る勇気がなく、キッカーに手を挙げませんでした。チームメイトの頑張りも虚しく、試合は負けてしまい、中学校のサッカーが終わりました。自分の弱い気持ちに負け、ＰＫに手を挙げなかったことに悔いが残ってしまうことになりました。

部活動を引退し、高校入試に向けて受験勉強が始まるころ、日野高校のサッカー部の先生から声をかけていただくことができました。僕の試合を見ていてくださったこと、日野高校に来てほしいと声をかけてくださったことがとてもうれしかったです。その期待に応えたいと思い、僕は日野高校でサッカーをすることを決意しました。

高校でのサッカーは波乱の連続でした。先輩は６人と少なく、自分たち１年生は８人で、試合ができるギリギリの人数でした。試合に出ても負けることが多く、１試合で 20 点以上取られたときは、心が折れそうでした。高校２年の新人戦のことです。同点で試合が終わってしまい、またもやＰＫの場面がきました。僕は中学校のときの後悔から、ＰＫの練習をし、決定率が高くなった自信がありました。しかし、緊張から外してしまい、チームは負けることになってしましました。そこからはＰＫに対する恐怖心との戦いでした。また外したらどうしようとか、みんなに迷惑をかけてしまうとか、そんな気持ちが次々と湧き上がってきました。高校最後の練習試合でまたもやＰＫ対決になり、僕は逃げたい気持ちでいっぱいでした。仲間が次々とシュートを決めていくなかで、ついに僕の番がきました。プレッシャーと失敗のイメージが頭をよぎりましたが、自分を信じてコースを狙ってシュートをしたところ、見事にゴールを決めることができました。トラウマを克服できたかなと感じました。

僕にとってサッカーとは、スポーツとしての勝ち負けではなく、あきらめずに最後まで続けることの大切さ、仲間同士での支え合いや友情、自分の弱い心を乗り越える強さを教えてくれるものでした。

もうすぐ最後の選手権大会を迎えます。結果はどうなるかわかりませんが、今までコツコツ練習を続けてきた成果が出せるように、悔いが残ることがないように最後まで全力でプレーしたいと思っています。

この 10 年間、サッカーを通して関わってくださったすべての方々とのつながり

が今の僕を支えてくれています。４月からは地元の企業に就職します。サッカーを通して学んだことをよりどころとして、社会人としての一歩を踏み出したいと思っています。